

予防接種あれこれ

小児科 大谷 英之



病気はかかる前に予防するのが一番です。そのためにいろいろな健康法があるわけですが、どれも効果ははっきりしない(?)もの。そんな中で、ほぼ確実に効果が得られるのが予防接種です。今回は予防接種の重要性についてお話しします。

【麻疹(はしか)】

麻疹は医学が発達した現在でも恐ろしい病気です。かかった人のうち千〜二千人に一人は死亡し、千人に一人は脳炎を起こしてしまいます(アメリカのデータ)。発症してしまうと有効な治療法は全くありませんので、予防接種が非常に重要です。

無料で受けられる期間は1歳〜2歳までの間と、小学校に入学する1年前〜入学するまでの2回ですが、それ以外の方でも、麻疹にかかったことがなくて予防接種を受けていない方は接種を強くお勧めします。特に、生後6ヶ月〜1歳までの乳児は万が一感染すると重症化しやすい危険です。

【おたふくかぜ】

軽い病気と思われがちですが、合併症が多く意外と厄介な病気です。

百人に一人は髄膜炎を発症し、数千人に一人は脳炎まで進展し重い後遺症を残します。また、思春期以降の男性がかかると精巣炎を起こし、まれですが不妊症の原因となることはよく知られています。

以前のワクチンは髄膜炎の合併症が多かったためあまりいい印象がないようですが、最近のものは改良されておりほとんど影響ありません。ぜひ接種をお勧めします。

【みずぼうそう】

ワクチンを用うれば発症はほぼ確実に予防できます。感染すれば間違いなく5〜7日間の自宅安静が必要となるので、共働きで保育園を休めなさい、といった方には接種をお勧めします。

【日本脳炎】

普段は豚の中に住んでいて、蚊によって媒介されるウイルスが原因で起きる病気です。日本脳炎は過去の病気と思っている人も多いようですが決してそのようなことはなく、現在でも日本で飼育されている豚の8割以上は日本脳炎ウイルスを保有しているといわれています。

感染すると千人に一人程度の確率で脳炎を起こします。脳炎患者のうち、20〜30%の人はなくなり、50%

程度の人には重い後遺症が残ります。

養豚場が家の近くにある人や、日本脳炎の流行地域へ旅行する予定のある方はぜひ接種してください。それ以外の方でもなるべく打つことをお勧めします。

10月以降はワクチンが手に入りにくくなるそうなのでお早めに。

【b型インフルエンザ桿菌】

ややこしいのですが、冬に流行するインフルエンザの原因である、インフルエンザウイルスとは全くの別物で、小児・成人の肺炎、中耳炎、髄膜炎などの原因として非常に重要な細菌です。髄膜炎は中でも特に重要で、この細菌による髄膜炎にかかると10%前後の患者は死亡し、助かった人も半分以上の確率で重篤な脳の後遺症を残すとされています。

すでに世界100カ国以上でワクチン接種が行われており、非常に高い効果を示しています。特に髄膜炎に対する効果は絶大で、ワクチンを導入した国では小児の髄膜炎は激減しました。日本でも来年からやと接種できるようになりそうですが、しばらくは自費になりそうです。

しかし、非常に重要なワクチンですので、なるべく接種することをお勧めします。詳しいことはいずれまた。

【海外旅行とワクチン】

海外では日本にはない病気が流行していることがあります。事前によく調べて、可能ならワクチンで予防するようにしましょう。

また、入国にワクチンの摂取証明を求められる場合もあります。直前にあわてないようしっかりと準備しておきましょう。

【そのほかのワクチン】

上記以外に現在日本で接種できるワクチンと、接種が勧められる方を列記しておきます。

いずれも世界中で使用されており、安全性と有効性が確立されているものばかりです。該当する方はかかりつけ医に相談してください。

A型肝炎…流行地(東南アジア)に旅行される方

B型肝炎…身内にB型肝炎ウイルス陽性者がいる方、医療従事者

肺炎球菌…65歳以上の方、とくに肺の病気や糖尿病があり肺炎にかか

る危険性が高い方

破傷風…農作業従事の方、庭仕事に興味の方

BCG・ポリオ・百日咳・ジフテリア…定期接種です。案内どおりに接種してください。

【最後に】

お子様の予防接種歴がはっきりしないときは、母子手帳をみてください。空欄が1個でもあるようなら不完全な可能性があります。

必ず小児科で相談してください。

